

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300038		
法人名	株式会社 VAN		
事業所名	海に見えるグループホームしおさい		
所在地	山口県山口市秋穂西3317番地の1		
自己評価作成日	平成25年11月29日	評価結果市町受理日	平成26年4月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれ、静かな環境。景色が広々としている。 毎年、秋に地域の協力を得て、「しおさい祭り」を行っている。 イベント時には2ユニット間の仕切りを取って大広間にする。普段からユニット間の行き来・交流がある。 2ヶ月毎に発行している「しおさい便り」に、入居者の生活の見える写真を掲載しており、家族に好評である。 施設長のピアノの生演奏で、昔の流行歌、唱歌、童謡を歌唱。安心感を演出している。 ボールや棒を用いた職員オリジナルの楽しい健康体操も、利用者に好評である。 預り金の管理は無料で行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺の散歩や馴染みの店での買い物他、毎週日曜日を外出の日としておられ、ドライブで桜や藤、コスモス、紅葉など季節毎の花見をされたり、スーパーでの買い物や初詣、御大師様の接待、八十八か所巡り、家族と一緒に外出や外食、買い物に行かれるなど、戸外に出かける機会を多くつくり、利用者が気分転換できるように取り組まれています。テレビやDVDの視聴をされたり、管理者のピアノ演奏で歌を歌われたり、ぬり絵や作品づくり、ゲームや体操、干し柿づくり、庭の草取り、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器洗いをされるなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくられて、利用者が張り合いや喜びのある暮らしができるように支援しておられます。管理者は年3回、地域の高齢者サロンに出向かれて、認知症についての話をされたり、ピアノ演奏をされるなど、地域の人々に向けて認知症ケアの啓発に努めておられます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・事務所の目立つ場所に掲示している。理念がやや冗長で分かりづらい、現状とそぐわないと感じている職員もあり、今年度、理念の再検討を行ったが、作り直しまでには至っていない。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を事業所内に掲示し、ミーティングで確認して共有し、理念の実践につなげている。職員が意見を出し合い理念の見直しを検討している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設として自治会に参加し、回覧をまわしてもらったり、地域の行事の案内をもらったりしている。地域の祭りや、「しおさい祭り」での交流はあるものの、日常的な交流は少ない。	自治会に加入し、地域の神社の秋祭りや、御大師様の接待(年2回)、八十八か所参りなどに参加したり、散歩や近所の店での買い物、車でスーパーに買い物に行き、地域の人と交流している。事業所主催の祭りは、ボランティア(フラダンス、歌謡、日本舞踊、詩吟など)の出演がある他、老人クラブや民生委員の人から企画や司会進行の協力を得て開催し、地域住民の参加があり交流している。楽器演奏や笑いヨガ、似顔絵、コーラスなどのボランティアの来訪がある他、近所から果物や野菜の差入れがある。管理者は年3回、地域の高齢者サロンに出向いて、認知症についての話しやピアノ演奏をして、地域の人々に事業所の理解が得られるように活動している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長が、地域の高齢者サロンで、認知症についての話をしたり、唱歌のピアノ演奏を行うなどしている。 現場レベルでは地域交流の機会に乏しく、地域貢献について十分でない、もしくはわからないと感じている職員が多い。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎年の自己評価については、全職員で取り組んでいる。評価の意義の理解についても、周知に努めているが十分ではなく、評価が活かされていないと感じている職員もある。	管理者は評価の意義について職員に説明し、自己評価するための書類を全職員に配布して記入してもらい、全体会議で話し合った後まとめている。前回の外部評価結果を受けて、2ヶ月に1回全職員が参加して研修を実施するなど改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、サービス評価について報告を行っている。会議の内容については会議録を回覧しているが、現場のサービス向上には活かされていない。	2ヶ月に1回開催し、現状報告、研修や行事、活動など事業所の取り組みについて報告し、意見交換をしている。消防署員(年1回参加)の意見で、救命講習で消防署の実施するものへの参加を勧められ、3名の職員が受講しているなど、意見を活かしている。	・メンバーの拡大と会議録の記録方法の検討
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者レベルでは行っているが、現場職員への情報共有が不十分である。	市担当課には出向いて相談し助言を得たり、情報交換をして協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは運営推進会議時の他、直接出向いて相談をして助言を得たり、情報交換をするなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や全体研修等で話し合いを行い、施設内においては、身体拘束をしないケアの実践に努めている。 玄関は常時施錠されている。離所や交通事故のリスクへの対応として、安全面から施錠なしでの対応は難しいと感じている職員が多い。	ミーティングの中で身体拘束マニュアルや資料を基に職員間で情報交換をし、理解をして身体拘束をしないケアの実践に努めているが、玄関は常時施錠している。スピーチロックについては管理者が指導している。	・玄関に鍵をかけないためのケアの工夫
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	それぞれの職員が、虐待を行わないという意識をもって働いている。 言葉づかい等にも配慮し、虐待の未然防止に努めていきたい。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度を利用されている利用者について、関係者と連携し、活用できるよう支援を行っている。 全職員が学ぶ機会を持てておらず、制度の理解については、職員間で差が大きい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っており、疑問点を確認し、十分な説明を心掛けている。 内容の変更の際には、書面にて案内している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見箱を設置。電話や面会時の家族からの意見や要望については、記録で引継ぎ、職員への周知、話し合いを行っている。運営推進会議、社協の介護相談については、全家族に案内を送付しているが、参加者は少ない。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。意見箱を設置している他、電話や面会時、運営推進会議時などで家族から意見や要望を聞いている。年1回来訪する介護相談員が利用者から要望などを聞き、事業所に報告している。家族から、下肢筋力を鍛えたり、自分でスプーンを持って食事ができるようにさせて欲しいとの意見があり、運動を取り入れるなど反映させている。家族からの意見や要望は連絡ノートに記録して共有し、ミーティングで話し合っ てケアに活かしている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中で気付いた時に随時、また、毎週・毎月のミーティング等で、意見を言うことは可能。出した意見に対しての反映は（内容にもよるが）十分とは言えない。	月1回のユニットミーティングや2ヶ月に1回の全体会議、月4回運営者が参加する月曜ミーティングで意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者が日常の業務の中で聞いている。入浴介助方法について男性職員の配置や入浴回数について検討して改善したり、車椅子やシャワーチェアーの購入など、職員の意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価が不透明であり、適正な評価がなされていないと感じている職員もいる。 職員が向上心を持って働けるような、環境整備が必要である。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己学習・自己研修が主であり、職場としての研修体制はできていない。研修や講演の案内があった際には、情報提供を行っているが、参加は個々人に任されている。昨年度より、隔月に全員参加の施設内研修を実施。（内容については再検討が必要）	外部研修の情報を職員に伝え、段階に応じた勤務の一環として受講の機会を提供している（2名参加）。内部研修は、2ヶ月に1回その都度テーマを決め1時間程度実施している。全職員参加で管理者が講師となり、主に認知症ケアについて学んでいる。日常の業務の中でも管理者が助言や指導をして、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の交流・情報交換等について、希望は多いは、実施されていない。 職員個人のネットワークにとどまっている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にコミュニケーションを取ることの難しい利用者も増えてきているが、本人の話の傾聴、表情の読み取りに努め、安心できる言葉かけができるよう心掛けています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学・入所の段階から、ご家族の話を傾聴し、不安の解消に努めている。 電話連絡時や、面会時等、日々の様子をお伝えし、家族との関係づくりに努めています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面談を行って、本人やご家族から、現状や生活歴、要望等のききとりを行っており、ケアプラン作成に活かしている。 必要に応じて、自施設以外のサービスについても、相談に応じ、情報提供している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に家事を行ったり、できることについては手伝って頂くなど、利用者個々の特性や得意分野に応じて、役割を担って頂いている。利用者のほうから、手伝いや肩もみ等、申し出てくださいることも多い。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員を中心に、家族と連絡を取り、関係づくりを行っている。電話や面会の際には、最近の様子をお伝えし、ご家族の意向の聞き取りも行っており、ケアプランに活かしていくよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの際、馴染みの道を通ったり、馴染みの話題を出す等、行っている。 馴染みの人との関係づくりについて、現在かわりがある方のみにとどまり、施設からの積極的な関係把握、関係づくりの支援までできていない。	友人、知人、同級生、親せきの人などの来訪がある他、馴染みの店での買い物や馴染みの訪問美容の利用、自宅周辺へのドライブなどの支援や、家族の協力を得て買い物、外食、外泊、墓参り、通夜や法事への出席など、関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーション等、利用者どうしが皆で楽しめるもの考えている。 利用者同士の関係の難しい方については、職員が間に立って、目配り声かけを行うなど、関係調整をしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・施設変更の際には、介護サマリーにて情報提供を行う。 施設変更ののちのフォローの体制はできておらず、関係は途切れがちである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当職員を中心に、一人ひとりの思いを傾聴し、また表情やご様子から思いをくみ取っていくよう努めている。	入居時のアセスメントや利用者の基本情報を活用している他、日常の関わりの中で聞き取ったことを個人記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は利用者を担当する職員を中心に本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、本人や家族、前施設や病院の関係者などから聴き取りを行い、把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録やチェックシートを活用・共有して、状況把握に努めている。心身の状態や、その時々課題については、把握されているが、一人ひとりのできる力・わかる力への着目は十分ではない。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員・計画作成担当者を中心に、各棟のミーティングでケース会議を行い、ケアプランを作成している。本人・家族の会議参加はなく、個別に聞き取りを実施している。	本人の思いや家族の意向、医師の助言などを参考にして、月1回、ユニットミーティングでケース会議を開催し、計画作成担当者、利用者を担当する職員を中心にして話し合い介護計画を作成している。6ヶ月毎の見直しや、利用者の状態に変化が生じた場合はその都度見直しをしている。	・モニタリングの実施

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録とチェックシートを活用・共有して、現状を把握し、ケアプランに活かしていくよう努めている。記録方法や実践への活用方法について、さらに学びを深めていきたい。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズについて、既存の施設機能の枠内での対応に留まり、柔軟な対応ができていないことが多い。個々の職員が、対応可能な範囲で、支援を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「しおさい祭り」の際には、地域の民生委員や老人クラブの皆様が、イベントの司会進行や、出し物の企画を行って下さった。笑いヨガ等のボランティアの来訪もある。行事やイベントの際の交流はあるが、日常的な地域資源の活用まではできていない。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1名を除き訪問診療を利用。家族の希望により、地域のかかりつけ医を受診している利用者もいる。内科以外の科目については、地域の医療機関を利用。訪問看護を通じて連携体制をつくっている。職員数やシフトの問題で、急な受診や他科受診への対応は難しく、家族に協力を依頼している。	協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の往診がある。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診時には、バイタル表のコピーや利用者の状況等を記録して医師に提供している。訪問看護ステーションと連携を図り、月2回看護師が訪問して健康管理や職員からの相談に対応したり、緊急時、急変時の支援など適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護STと連携。毎週(隔週で各棟)の訪問時に情報交換や相談を行っている。24時間相談体制も整い、体調不良時や急変時に、電話で相談したり、随時訪問してもらうことも可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、口頭およびサマリーにより、医療機関との連携・情報交換を行っている。個別のケースにより、連携の程度にばらつきはある。必要時の連携にとどまり、事前の関係づくりまでは行っていない。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設として、具体的な内容や実施方法の話し合いに至っておらず、方針が共有されていない。職員体制や、介護設備、医療連携体制も十分でなく、利用者の重度化により必要に迫られてはじめて対応している状況である。早い段階の本人・家族との話し合いもできていない。	重度化や終末期に向けて事業所でできる対応について、契約時に口頭で家族に説明している。実際に重度化した場合は、医師と相談して家族と話し合い、移設も含めて方針を共有し、取り組むことにしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット・事故報告について、毎月の会議で報告を見直し、対応方法を検討している。定期的な応急手当や初期対応の訓練は行っておらず、実際の対応には不安が多い。全職員に救急法を身につけてもらえるよう、消防署の救急法講習会への参加を勧めている。	ヒヤリハット、事故報告書に記録し、その日の職員で対応策を話し合い、月1回のユニットミーティングで改善策を検討して、介護計画に反映させるなど一人ひとりの事故防止に努めている。消防署の救命講習に職員3名が参加している。応急手当や初期対応の訓練までには至っていない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署に依頼し、消防訓練を実施しているが、全職員の参加ではなく、緊急時の対応には不安が残る。運営推進会議への消防署職員の参加(年1回)地域防災への参加・連携も行っているが、管理者レベルにとどまり、職員に周知されていない。	年2回、消防署の協力を得て、火災時夜間を想定した避難訓練を実施している。管理者は地域防災メンバーに入っている。地域防災メンバーが事業所の避難経路の確認のため来訪している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ほとんどの職員は心がけて対応しており、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。 職員による意識差もあり、一部、馴れ合いになってしまっている部分もみられる。	日常の関わりの中で、職員同士が話し合いをして、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があった場合は管理者が指導している。個人記録等は保管して取り扱いに注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いの傾聴に努めているが、帰宅希望など、本人の思いが強くても、希望に添うことができないこともあり、難しさを感じている。 自己決定の場面は少ない。可能な方については、なるべく選択ができるよう働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、対応可能な範囲で、本人の希望を尊重した支援を行っているが、十分とはいえない。 共同生活の中で、対応できる職員にも限りがあり、施設の決まりや、職員側の都合が優先されがちである。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔に配慮し、整容や更衣に気を配っている。服装は、本人・家族の持参されたものの中から、選んで着ていただいている。 散髪・パーマ等については、訪問美容室を利用される方が多いが、ご家族の協力により、馴染みの美容院を利用される方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎朝食と、金曜日の昼食は、職員が手作ししているが、昼・夕食は、配食サービスを利用しており、食事の準備や盛り付けを手伝って頂く機会は減っている。 テーブル拭きや、お盆拭き、片付けについては、(手伝える利用者は限られるが)手伝いをお願いしたり、自分から手伝いを申し出ていただいたりしている。	昼食と夕食は配食サービスを利用し、朝食と金曜日の昼食は、差し入れの野菜を使用したり、旬の食材を購入して、事業所で食事づくりをしている。利用者は、テーブル拭き、お盆拭き、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。事業所の祭りには出店の焼きそばや焼き鳥を食べたり、年1回は出前の寿司を食べたり、誕生食、おやつづくり、家族との外食など、食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、刻みやミキサー等、食事形態を工夫している。 食事の摂取量や、水分量を把握し、その方に応じて、声かけや食事介助を行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員に声かけを行い、口腔ケアの見守りや確認、介助を行っている。 ケアの実施が難しい方については、訪問歯科の口腔ケアを活用している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を用いて、排泄パターンを把握し、定期的な声かけ、トイレ誘導を行っている。 一人ひとりの能力に応じたフォローを行い、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	排泄表を活用して、排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や、補食として、ヨーグルトを勧めるなど、予防の働きかけも行っているが、薬に頼っている面も大きい。 排泄の状況をみながら、医師・看護師に相談し、緩下剤等で対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	原則、隔日入浴であるが、その時々状況や、利用者の希望に応じて、可能な範囲で、臨機応変に対応している。個別入浴であり、個々のペースでゆっくり入浴することができる。 介護度が高い方、体格の大きい方については、複数職員での対応が必要なことから、職員都合での入浴支援となっている。浴槽への出入りが難しい方については、シャワー浴で対応している。	入浴は13時から16時まで、隔日に可能で、希望や体調に合わせて、ゆっくり入浴が楽しめるように支援している。職員との会話や入浴剤の香りや色を楽しむこともあり、利用者の状態によってシャワー浴や足湯での支援をしている。入浴したくない人には声かけやタイミングの工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状況について、日誌・個別記録に記録し、共有している。 個々の利用者のリズムを尊重し、ゆっくり休むことができるよう配慮している。 なるべく、日中活動し、夜間安眠できるよう声かけを行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全利用者の服薬内容の一覧表を作成しており、薬の名前・数量の確認が容易である。 薬の説明の紙は個別にファイルしている。 薬の変更の際は、引継ぎ簿に記載すると同時に、一覧表に変更を記載し、全職員への周知をはかっている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や適性に応じて、家事やレクリエーション活動等の中で、様々な役割を担っていただいている。自分の得意分野を生かして、レクの司会や、生け花等をしてくださる方もある。 利用者の重度化にともない、できる方が限られてきており、全利用者に対しての対応は、できていない。	テレビ視聴（歌番組、連続ドラマ、相撲、ニュースなど）やDVD視聴（歌）、レクリエーションの司会、ピアノ演奏で歌を歌う、ぬり絵、作品づくり、計算、しりとり、連想ゲーム、健康体操、口腔体操、散歩、買い物、ドライブ、庭の草取り、干し柿づくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き、食器洗いなどの楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、利用者が張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎週日曜日をお出かけの日として、ドライブ等、外出支援を行っている。季節に応じて、花見や紅葉狩り等も行っている。 その日の職員で対応できる範囲の支援にとどまり、個別の利用者の希望への対応は難しい。一部であるが、家族の協力で個別に外出される方もいる。地域との協力体制はできていない。	散歩や買い物の他、毎週日曜日を外出の日として、各地の花見(桜、藤、コスモス、紅葉など)にドライブしたり、初詣、御大師様の接待、八十八か所巡りなど戸外に出かけられるように支援している。家族の協力を得ての外出や外食、買い物なども支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、施設管理であるが、御本人の理解力や能力に応じて、お金やお財布を所持されている方もいる。近所の商店やドライブの途中など、時に買い物をされることもあるが、職員の買い物代行がほとんどであり、お金を使う機会は少ない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話の設置は無いが、本人の希望があれば、施設の電話の取次ぎを行っている。 本人の状況・家族の協力に応じて、できる範囲での対応であり、プライバシーに配慮した、自由なやりとりは難しい。 手紙を書く機会はほとんどない。毎年の年賀状については、ひとり1枚は送付出来るよう支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が持ち寄った花を活けたり、季節に応じた製作物を飾ったりしているが、さらに工夫の余地がある。空調の調整等に、悩むこともある。 海側の中庭に太陽光発電のパネルが設置され、海が見えにくくなったことが、残念である。	共有空間には、自然の光が差し込んで明るく、窓から海を眺めることができる。テレビの前にコの字型にソファを置いて利用者がゆったりくつろげるようにし、畳コーナーには掘りごたつがあるなど、利用者一人ひとりの居場所づくりをしている。職員が持参した季節の花を生けたり、観葉植物を置き、壁面に季節に合わせた利用者の作品を飾り、季節感を感じることができるように工夫している。温度、湿度、換気、音にも配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが、個々のペースで思い思いにすごされている。テレビのあるホールに集まることが多く、定位置は決まってきたが、時に、座る位置を巡ってトラブルが生じることもある。テーブルの席替えをしたり、空いた席に誘導するなど、気のあう利用者同士で居場所がつかれるよう配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	原則、居室の寝具・備品等は、本人・ご家族が持ち込まれたものとなっており、居室の様子は、個人差が大きい。1名であるが、居室に植物を飾って楽しんでおられる方もある。居室の掃除や整理整頓は、本人に確認しながら行っている。	テレビ、小タンス、テーブル、椅子、衣装ケース、仏壇、花や観葉植物、時計、ぬいぐるみ、アルバム、日用品など使い慣れた物や好みものを持ち込み、家族の写真や利用者の作品を飾って、利用者が安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はほとんどバリアフリーであるが、手すりの位置、浴室等、個々の利用者の身体状況の変化に応じた対応まではできていない。 声かけ・見守りを行い、安全に移動できるよう支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 海に見えるグループホームしおさい

作成日：平成 26年 4 月 22 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	7(6)	現在の入居者で、各ユニットに1名、帰宅願望が時折強くなる方が居られ、出入り口に鍵を掛けて「開かないよ。」で済ます事はできず、お話をしても納得される事もないが、その場のみの対応になりがち。	一昨年よりの研修で、認知症・入居者に対する理解が大分深まった。左記のような場合に、入居者にストレスを感じさせずに対応できる職員が増えてきた。対症療法に頼らずに済む日頃の暮らし、お世話を続けられるように。	全てに入居者の特性を今一度整理して、普段から・ゲーム・歌唱・外出などの楽しみを散りばめて、入居者を追い込まないようにする工夫を、職員間で相談していく。	1年間
2	5(4)	運営推進会議を含め、地区との繋がりが今一つ弱い。地区防災のメンバーには入ったが、施設長のみの参加である。地区からはこれと言った要望はないが、もう少し交流の機会を増やして	地区からはこれと言った要望がないが、もう少し交流の機会を増やして、地区の子どもから高齢者までが、気軽に出入りできるようにしたい。	今年度は、地区防災との防災訓練の予定があり、また、当施設でのボランティアによる演奏会を地区に公開する予定。	1年間
3	27(12)	しおさいからの一方通行の感は否めない。	幸いなことに、最近ご家族からの要望として、「認知症が最近特に進んでいるのは了解しているので、住所と名前を書く練習を毎日して欲しい」とあった。御家族が安心できるように。	楽しく訓練・練習の出来るように方法を工夫して、機能を維持・向上を目指す。全体での棒やボールなどの器具を使った体操や歌唱に加え、個別に練習を行うように。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。